

圏域	提出日（最新）	計上歴	小学校区	課題区分	課題	提案	効果	今後の方向性	結果	取組内容	備考
01	令和4年3月31日		樟葉 樟葉南 樟葉北	情報の共有 活動の担い手 交流	開催の自粛のため、主催者側のモチベーションが下がってきている。 新しい参加者を掘り起こすための良い案が欲しい。	・元気づくり会議の場で新しい内容に取り組んでいる居場所の情報を共有。 ・各居場所の交流の機会を作ってみる(同じ競技同士で大会の開催等) ・こもれびだより(通信)の記事掲載を活用して集客につなげて欲しい。(広報の活用)	・主催者同士のつながりができれば交流の機会(企画)も練りやすい。 ・地域外の方にも参加を呼びかけ集客につながる。	第2層協議体で検討 第2層協議体で取組み			
01	令和2年3月31日		樟葉 樟葉南 樟葉北	その他（アクセスの問題）	居場所自体は増えてきているが、軽度認知症の方など、参加したい気持ちがあっても居場所までたどり着けなかったり、日時を忘れてしまう方が増えている。	日常生活圏域内で、そのような方に声かけしてもらい、一緒に参加してくれる方を募った。	今のところ目に見えた効果は出ていないため、継続課題としていく。	第2層協議体で取組み			
01	令和2年3月31日		樟葉 樟葉南 樟葉北	交流	高齢者お出かけ推進事業・ひらかたポイント事業について、知らない人が多いことと、楠葉地域で使える店が少ないこと、利用するための手続きが煩雑なこと等の課題があげられ	事業をよく調べてみると、高齢者にとって役に立つ内容もあると思うので、今後困難もあると思うが、まずはやってみるところからはじめていく。	新型コロナウイルスのため、しばらくは地域での活動ができないため、今のところ目立った効果はでていない。	第2層協議体で取組み			
01	令和元年10月1日		樟葉 樟葉南 樟葉北	活動の担い手	新たな活動の担い手をどのように増やしていくか。	地域包括支援センターにて、ボランティア講座を開催する。	民生委員・児童委員や福祉委員会等と関わりのない人たちにも地域の居場所活動を啓発できる。	第2層協議体で取組み			
01	令和元年10月1日		樟葉 樟葉南 樟葉北	活動の場	高齢者が介護予防や知識・情報の共有など、身近な場所で活動や勉強が可能な場を増やしたい。	地域包括支援センターの会議室にて「こもれび教室」「こもれびサークル」を実施する。	近隣の比較的元気な高齢者が気軽に活動できる場を増やすことができる。	第2層協議体で取組み	済	地域包括支援センターの会議室にて「こもれび教室」「こもれびサークル」を実施した。	
02	令和4年3月31日		樟葉西	その他(認知症の啓発)	認知症に関する理解や、認知症の方に対する対応について、理解が不十分。地域住民や小学校、企業などへの啓発が必要ではないか。	自治会単位や小学校、企業向けに認知症サポーター養成講座の開催など、認知症に関する地域への啓発を、次年度の取組み課題としてあげていく。	地域住民に認知症のことを周知できる機会が増えれば、家族や周囲の人が、認知症の方への気づきにつながり、認知症の早期発見、早期治療につながる。また認知症への理解が広がることで、地域での見守り力や対応力の向上につながる可能性がある。	第2層協議体で検討			
02	令和3年10月28日		樟葉西	活動の担い手	コロナ禍において、個々の地域での活動で不安を抱えている人がある。濃厚接触者から漏れる人や、なかなか検査してもらえないという場合もある。自分たちで検査できないか。	元気づくり会議の予算で100人分ぐらいの抗原検査キットを購入し、校区として活用してみるのはいかがでしょうか。	樟葉西校区づくり・地域づくりの活動として、個々の地域での活動に不安を抱える際に、キットを提供できるよう備蓄していくという発想で購入していく。100セット購入し、各地区に10セットずつ配布し、残りは備蓄することで素早い検査ができるようになる。	第2層協議体で取組み	済	抗原検査キットを購入し、自治会、老人会など希望に応じて配付	
02	令和3年3月31日		樟葉西	情報の共有	校区内の事業所に「協力できそうなこと」を過去にアンケートを行い、一覧を作成したが、活用できていない。	各事業所に再度アンケートを行い、一覧表の内容の確認を行い、樟葉西校区元気づくりポイント事業との連動も検討していく。	コロナウイルス感染拡大を受けて、元気づくり会議の開催ができず、次年度以降取り組んでいく。	第2層協議体で取組み			
03	令和4年3月31日	令和3年10月8日 令和3年3月31日 令和2年10月10日	招提	活動の担い手	カフェ再開の見込みが立たない。 コロナの影響でカフェ再開の見込みが立たない。その他の活動も同様	密にならずにできる取組みを考える。 密にならずにできる屋外での活動、少人数でできる活動を考える。（ノルディックウォーキングなど）	コロナ禍のなかでも楽しみを見つけることができる。 フレイルや閉じこもりの予防になる。コロナ禍でも他者との交流が続けられる。	第2層協議体で取組み			
03	令和2年10月10日	令和2年3月31日 令和元年10月10日	招提	その他（地域の交通環境）	道路の白線や道路記号が見えにくくなり、交通事故の原因になる可能性がある。	交通環境に関しては、枚方市の交通対策部署に要望書を上げていく。	交通環境を整えたり、支援してくれる人が増える事で、安心して外出できる高齢者が増える。	その他（要望書の作成）			
03	令和元年10月10日		招提	活動の担い手	老人会の役員が無理をしている。一般の会員も出てくる老人会にするためには	役員の負担の軽減と役員の世代交代のために、どんな集まりだったら前期高齢者が参加してくれるのかを考える。	支援する側の若い世代が増えることで、地域の居場所や活発な老人会が増える。	第2層協議体で取組み			
03	令和元年10月10日		招提	活動の担い手	老人会やカフェなどに参加しない人	一人では外出できない人の支援をする人の育成	交通環境を整えたり、支援してくれる人が増える事で、安心して外出できる高齢者が増える。	第2層協議体で取組み			
03	令和4年3月31日	令和3年3月31日 令和2年3月30日	殿二	活動の担い手	元気づくり教室の担い手の確保	外部委託の導入	活発かつ定期的な事業展開	第2層協議体で取組み			
03	令和4年3月31日	令和3年3月31日 令和2年3月30日	殿二	活動の場	高齢者の居場所の不足	新たな活動場所の選定	活動場所の提供者との連携 オレンジカフェの実現	第2層協議体で検討			
03	令和4年3月31日	令和3年3月31日	殿二	活動の担い手	コロナ禍における高齢者等の要支援者の見守り強化	校区独自のリーフレット作成のほか、市社協作成のリーフレットなどの活用	地域のつながりの継続	第2層協議体で取組み			
03	令和4年3月31日	令和3年3月31日	殿二	活動の担い手 活動の場	コロナ禍による高齢者等のフレイルの懸念	市、関西医科大学と連携し、ノルディックボールを使ったウォーキング教室の実施	フレイルからの脱却、新たな担い手の確保	第2層協議体で取組み			
03	令和4年3月31日	令和3年3月31日	殿二	経済情勢の悪化	社会経済情勢の悪化による生活困窮世帯の発生	夜間・休日の緊急支援要請に対応して食料品等を提供できる体制の構築	地域のつながりの継続	第2層協議体で取組み	済	校区内に備蓄場所を確保し、随時実施	
03	令和4年3月31日	令和3年3月31日 令和2年3月30日	殿二	活動の担い手	担い手の高齢化、役割の重複	グループ支援活動と個別支援 活動の一元化	担い手の役割軽減	第2層協議体で検討			
03	令和4年3月31日	令和3年3月31日 令和2年3月30日	殿二	情報の共有	要支援者名簿の乱立	校区としての名簿統一	大規模災害時の対応円滑化	その他（市、他団体との協議）			
03	令和2年3月31日		平野	活動の担い手 活動の場	元気な高齢者を増やすにはどうしたらよいか。 家に閉じこもっている高齢者が地域と関わる場所が少ない。カーリンコンとグラウンドゴルフは地域に定着しているが、その他の活動が少ない。 地域の人が通いやすい場所が少ない。	勉強会や健康セミナーなどの出前講座を開催する。 グラウンドゴルフやカーリンコンを居場所登録し、新たな高齢者の参加を促す。	身体を動かすことが苦手な高齢者がセミナー等に参加することで、幅広い層の交流の場が増える。 参加者が増えることで担い手が増え、様々な活動の居場所も増える。	第2層協議体で取組み			
03	令和2年7月10日		平野	活動の担い手 活動の場	コロナの影響で外出や交流の機会が減り、家に閉じこもっている高齢者が地域と関わる場所が少ない。 カーリンコンとグラウンドゴルフは地域に定着しているが、その他の活動が少ない。	勉強会や健康セミナーなどの出前講座を開催する。 少人数で三蜜にならない新たな活動を検討する。	身体を動かすことが苦手な高齢者がセミナー等に参加することで、幅広い層の交流の場が増える。 少人数で身体を動かすことで閉じこもりや不活発の予防になる。	第2層協議体で取組み			
03	令和2年10月10日		平野	活動の担い手 活動の場	コロナの影響で外出や交流の機会が減り、家に閉じこもっている高齢者が地域と関わる場所が少ない。 カーリンコンとグラウンドゴルフは地域に定着しているが、その他の活動が少ない。	コロナ禍の中、少人数でも取り組める活動を推進していく。（くらわんかウォークーズ・120日チャレンジ等）	少人数で身体を動かすことで閉じこもりや不活発の予防になる。	第2層協議体で取組み			
03	令和3年1月10日		平野	活動の担い手 活動の場	これまでできていた地域活動がコロナの影響で軒並み中止となった。密にならず少人数でも取り組める活動を推進していく必要がある。	くらわんかウォークーズや120日チャレンジを普及していく。	少人数で身体を動かすことで閉じこもりや不活発の予防になる。	第2層協議体で取組み	済	令和2年10月24日（日）等に小学校グラウンドでくらわんかウォークーズを普及し、グループ登録をした。	

圏域	提出日（最新）	計上歴	小学校区	課題区分	課題	提案	効果	今後の方向性	結果	取組内容	備考
03	令和3年3月31日		平野	活動の担い手 活動の場	コロナの影響で地域活動ができなかった。外出や交流の機会が減り、フレイルになる人が増えた。	カーリンコンやグラウンドゴルフを少人数で開催する。 運動が苦手な人でも参加しやすいように、フレイル予防などの講座を開催する。	外出機会や人との関わりや声かけ、見守りの目が増えることでフレイル予防につながる。	第2層協議体で取組み			
03	令和元年10月10日 令和2年1月10日		平野	活動の担い手 活動の場	認知症の人が増えている。 老人会の活動をする人が減っている。 グラウンドゴルフ等、参加するだけで、片付け等に参加しない人も多く、受け身の人が多い。 スポーツに参加できない人の居場所づくり。	各自治会や老人会など比較的小さな単位で認知症サポーター養成講座や認知症予防の出前講座を開催 老人会に入っていない人がなぜ入らないか分析し、興味を持っていただくような取組みを元気広場で考える。 何度も片付けなどにも参加するように声をかけていく。 グラウンドゴルフや老人会に参加するメリットが目に見える と参加が増える可能性あり。（高齢者居場所づくり事業の活用）	当事者だけでなく、幅広い世代に認知症を理解してもらうことで、高齢者が住みやすい街になっていく。 老人会が地域の高齢者の居場所として機能すると、比較的身近な場所での居場所ができ、居場所に参加できる高齢者が増える。（平野校区は各自治会に1つ老人会がある。） 高齢者が運営側に回ることで、担い手の人数が増え、居場所の数も増える。	第2層協議体で取組み			
03	令和3年7月9日		平野	活動の担い手 活動の場	コロナの影響で地域活動ができなかった。	緊急事態宣言解除後、屋内のできる活動などを徐々に再開していく。	集いの場、見守りの目が増えることでフレイル予防につながる。	第2層協議体で取組み			
03	令和4年3月31日	令和4年1月8日 令和3年10月8日	平野	活動の担い手 活動の場	コロナの影響でカーリンコンやグラウンドゴルフ等、地域活動で集まることができない。	地域的情勢を見ながら徐々に活動を再開していく。	集いの場、見守りの目が増えることでフレイル予防につながる。	第2層協議体で取組み			
03	令和4年3月31日	令和4年1月8日	平野	活動の担い手 活動の場	運動以外の行事が少なく、運動が苦手な人が集う機会が少ない。	運動以外の活動を取り入れる(研修など)	集いの場、見守りの目が増えることでフレイル予防につながる。	第2層協議体で取組み			
03	令和元年10月10日 令和2年1月10日		船橋	活動の担い手 活動の場	枚方ハイツ元気いきいきサロンは、集会所の2階で行っているが、階段があり、その昇降が困難な人は参加できない。そのため新しいメンバーが増えない。 男性の参加者が少ない。	車いすの人は無理でも、少し手を貸せば昇降できる人に対しての送り迎えをする人の募集 元気な男性の活躍の場（前述の送り迎えなどの役割を担う等）を考える。	単に参加して楽しむだけではなく、担い手として男性を取り入れる事により、役員の負担も軽減される。	第2層協議体で取組み			
03	令和2年1月10日		船橋	活動の担い手 活動の場	コーディネーター費で、いろんな場所のレクリエーション等の物品を購入した。初期投資が終わったので、今後どのようにプールしているお金を使っていくか。	物以外にも使う（講師など） 新たな取り組みを考える。	一(未記載)	第2層協議体で取組み			
03	令和2年3月31日		船橋	活動の担い手 活動の場	カーリンコンや老人会の参加者が少ない。 元気じゃない高齢者の居場所がない。 役員の高齢化が進んでいる。 多くの参加者が現状で満足し、新しいことができない。	シニアクラブ等の集まりにカーリンコンをPRする。 カーリンコンのチラシを作り、どんなものか知ってもらう。 漫才や落語のDVD上映など、高齢者が親しみやすい活動とその他（カーリンコンや新しい取組み等）と一緒にやる。 元気な高齢者の活躍の場（ボランティア等）を考える。	活動内容を広く周知することで参加者が増え、役員等の担い手になっていく。 元気な高齢者の役割をつくることで、地域で孤立する高齢者が減少する。	第2層協議体で取組み			
03	令和2年7月10日		船橋	活動の担い手 活動の場	カーリンコンや老人会の参加者が少ない。 元気じゃない高齢者の居場所がない。 役員の高齢化が進んでいる。 多くの参加者が現状で満足し、新しいことができない。 コロナの影響で各活動の再開日途が立たず不安	シニアクラブ等の集まりにカーリンコンをPRする。 カーリンコンのチラシを作り、どんなものか知ってもらう。 漫才や落語のDVD上映など、高齢者が親しみやすい活動とその他（カーリンコンや新しい取組み等）と一緒にやる。 元気な高齢者の活躍の場（ボランティア等）を考える。	活動内容を広く周知することで参加者が増え、役員等の担い手になっていく。 元気な高齢者の役割をつくることで、地域で孤立する高齢者が減少する。	第2層協議体で取組み			
03	令和2年10月10日		船橋	活動の担い手 活動の場	役員の高齢化が進んでいる。 コロナの影響で閉じこもりや運動不足になるリスクが高くなっている。 コロナの影響で各活動の再開日途が立たず不安	コロナ禍の中でも取り組めることを紹介する。 密を避け、少人数で活動を再開できるよう努める。（フェイスシールドの活用等）	閉じこもり・フレイル予防になる。 交流機会が増え、地域で孤立する高齢者が減少する。	第2層協議体で取組み			
03	令和3年1月10日		船橋	活動の担い手 活動の場	コロナの影響で閉じこもりや運動不足になるリスクが高くなっている。 コロナの影響で各活動が開催できない。 役員の高齢化が進んでいる。	脳トレやフレイル予防のチラシを配布する。 個別訪問・電話等で独居高齢者の状況を把握する。	コロナ禍でも取り組めることができ、不活発の予防になる。 地域で孤立する高齢者が減少する。	第2層協議体で取組み			
03	令和3年7月9日	令和3年3月31日	船橋	活動の担い手 活動の場	コロナの影響で各活動の再開の見通しが立たない。	脳トレやフレイル予防のチラシを配布する。 グラウンドゴルフなど屋外のできる活動を再開する。	地域で孤立する高齢者が減少する。 フレイルや閉じこもりの予防になる。	第2層協議体で取組み			
03	令和3年10月8日		船橋	活動の担い手 活動の場	コロナの影響で集いの機会が減った。 閉じこもりやフレイルになる高齢者が増加する懸念がある。	脳トレやフレイル予防のチラシを配布する。 ノルディックウォーキングなど、屋外で密にならずできる行事を開催する。	地域で孤立する高齢者が減少する。 フレイルや閉じこもりの予防になる。	第2層協議体で取組み			
03	令和4年3月31日	令和4年1月10日	船橋	活動の担い手 活動の場	コロナの影響で集いの機会が減った。老人会の退会者が増加している。 ワクチン接種していない人の活動参加について対応に困っている。	脳トレやフレイル予防のチラシを配布する。 感染予防対策を取りながら活動する。 屋外のできる取組みを開催する。	地域で孤立する高齢者が減少する。 フレイルや閉じこもりの予防になる。	第2層協議体で取組み			
04	令和元年9月30日		小倉	交流	既存の活動では集まる人がいつも同じ	コミュニティ協議会主催で、けんこう交流会を行い、普段と違う方が来れば良いのでは。	福祉委員会等に来られない方も参加できる。	第2層協議体で検討			
04	令和元年9月30日		小倉	情報の共有	ひらかた元気くらわんか体操はなじみがないが、結構良いので始めたい。	校区全体行事の時に言い認知度を高める。（昨年度までは地域包括支援センター職員により行っていたが、今年度は地域の役員で行う。） 小単位の折々の集まり（自治会、老人会、校区福祉委員会、会食会等）で行う。（必要であればDVDプレイヤーの貸出）	校区が自主的に行い浸透してきた。 定期的に継続して行う自治会もあり、効果を感じておられるので、定期的に継続して行う自治会を増やしたい。	第2層協議体で検討			
04	令和2年3月31日		小倉	情報の共有	地域で認知症と思われる方がいるが、対応が分からない。	個別に相談してもらう。	地域に気軽に相談してもらう。	地域への周知を広げる。			
04	令和2年10月30日	令和2年3月31日	小倉	活動の担い手	行事が好評なのは嬉しいが、次はもっと頑張ると運営が大変になり、次の役員のなり手が少なくなる。	あまり頑張りすぎず普通にする。	役員になると大変という思いが少なくなる。	第2層協議体で検討			
04	令和3年3月31日		小倉	交流	コロナ自粛でだが活動を求めている。	感染リスクを軽減する対策をして行事を企画	つながりの再構築	第2層協議体で検討			
04	令和4年3月17日		小倉	情報の共有	コロナウイルス感染対策のために会議、行事の再開のめどが立たない	役員も多く変わっているので初めは会議ができるようになってから再構築する。	新たにシステムが構築できる。	第2層協議体で検討			
04	令和2年11月22日		磯島	情報の共有 活動の担い手 交流	新型コロナウイルス感染状況の共有他(発生事象)の把握と対策。 関西医科大学看護科の学生さんの活動参加。 活動の場(大潤会カームの施設協力、小学校の体育館、集会所(2か所)の分担)	一(未記載)	一(未記載)	第2層協議体で取組み			
04	令和4年3月7日		磯島	その他	新型コロナウイルス感染対策を最優先して、クラスター発生の要因として磯島校区内の全集会所の使用禁止を発令した事で、年間事業の予定が見直された。	福祉委員の増強目標として各自治会より福祉委員1名の現状を改め、2名選出を各自治会へ指示する。	一(未記載)				

圏域	提出日（最新）	計上歴	小学校区	課題区分	課題	提案	効果	今後の方向性	結果	取組内容	備考
04	令和4年3月31日		磯島	交流	最大の活動(世代間交流)として、歩こう会の実施	歩こう会の時間帯と内容変更 従来9:00～15:00→新案9:00～12:00に変更 半日間の楽しい時間帯で実施(新型コロナ感染対策にて時間短縮)	参加者の増加	第2層協議体で検討 第2層協議体で取組み	済	令和3年11月に開催（参加者189名）	
04	令和2年3月31日		殿一	活動の担い手 交流 活動の場	居場所づくりに自治会の協力が得にくい。	コミュニティ協議会の活動の一環としての元気づくり・地域づくり会議ということを認識してもらう。	他人ごとではなく「我がこと」として認識すれば活動が前向きになる。	第2層協議体で取組み			
04	令和2年3月31日		殿一	交流 活動の場	ウォーキングイベント好評だが、知らなかったという声もある。	ウォーキングイベントを続ける。回覧の時期を検討し、ポスターを強化する。	次回の開催で効果判定	第2層協議体で取組み			
04	令和2年3月31日	令和元年9月30日	殿一	交流 活動の場	常駐の活動が少ない。	校区内で3か所程度居場所をつくり、それぞれ月1回開催できれば、月3回活動場所ができる。	地域の運営は月1回だが、行ける方は月3回の居場所ができる。	第2層協議体で取組み			
04	令和4年3月17日	令和2年10月30日	殿一	活動の場	集まらない。	ノルディック・ウォーキングなら屋外なので距離を空けて開催できるのではないか。	開催検討できるかもしれない。	第2層協議体で取組み			
04	令和3年3月31日		殿一	その他（会議体）	コミュニティ自体が集まらないので進展が見えない。	来年度から再度始めるつもりで行う。	もともと滞っていたことをリスタートできる。	第2層協議体で取組み			
04	令和元年9月30日		殿一	交流 活動の場	校区内で健康に資するものがあまり少ない。	校区全体でウォーキングイベントを行う。	ウォーキングイベントを行うことで歩ききっかけになればよい。また住民間の交流が拡げればよい。	第2層協議体で取組み			
04	令和3年3月31日		西牧野	活動の場（セルフケア）	コロナ自粛だが活動を求めているが、反対する人もいる。	まずは役員で会議をして意思統一が必要	意思統一することで、適切な感染対策ができ、不安を最小限にできる。	第2層協議体で取組み			
04	令和4年3月17日	令和3年10月30日	西牧野	その他（セルフケア）	感染防止のため集まらない。	個人でひらかた元氣くらわんか体操をする。 各シニアクラブは、感染拡大期以外は開催できるところもある。	個人で運動ができる。 自治会単位で活動を続ける。	その他（個人活動の促進）			
04	令和元年9月30日		西牧野	交流	地域の場所で集まる場所はあるが使っていない。	旧一号線の東側で定期的な居場所をつくる。	阪一の居場所も軌道に乗り、人も増えてきた。（元気な高齢者、虚弱な高齢者、要支援の方、要介護の方<認知症、車いす含む>）	第2層協議体で取組み			
04	令和元年9月30日		西牧野	情報の共有 活動の担い手 交流	ちょっとした生活支援の「お助け隊」を校区全体に拡げたい。	各自治会で立ち上げて手におえなければ校区全体でお助け隊を派遣する。	校区全体で助け合うことができる。	第2層協議体で検討			
04	令和元年9月30日 令和2年3月31日		西牧野	活動の担い手 交流	居場所を自分たちで運営してほしい。	まずはお茶をセルフで用意できるようにし、運営役員を減らしていく。	完全自主化できれば、次の場所を探して作っていく。校区全体で助け合うことができる。	第2層協議体で取組み			
04	令和元年9月30日 令和2年3月31日		西牧野	その他（セルフケア）	地域の高齢者が介護予防・認知症予防の取組みを自ら行っていない。	校区全体で健康セミナー体力測定会を行い、結果と対応方法を記載したファイルを渡す。	介護予防に自ら取り組んでもらう。利用者には好評なため、できれば複数回続けたい。	第2層協議体で取組み			
05	令和元年10月10日		高陵	情報の共有 活動の場	災害時の空き家対策	空き家に関する情報の収集（空き家対策、空き家活用事例など）	管外研修として古民家を活用した認知症カフェを実施している他市を情報収集する。	第2層協議体で取組み			
05	令和2年3月31日		高陵	情報の共有 交流 活動の場	学校統廃合や教員異動における活動への影響（活動場所は小学校の校区集会室がメインになっており、児童との交流を目的とした活動が多い）	第2層協議体構成団体に学校を含めてはどうか。	時間をかけて話し合いをすすめる。	第2層協議体で検討			
05	令和2年10月1日	令和元年10月10日	高陵	情報の共有 活動の担い手 交流 活動の場	若い人が地域福祉活動に関心が少ない。	小学生児童など、子どもが関心を持つことは保護者が関心を持つきっかけにもなることが予想されるため、学校と連携した事業展開を考える。	学校と連携した世代間交流を土曜日に開催し、保護者の参加も促す。保護者と福祉委員会の交流にもつながる。	第2層協議体で検討 校区福祉委員会・学校と共催で取組み			
05	令和3年3月31日		高陵	情報の共有 交流 活動の場	外出を自粛している高齢者に少しでも外にでる機会をつくり、介護予防につなげる。	配食活動を取りに来てもらう形式に変更 対象の高齢者に校区の中心地にある公園まで取りに来ていただき、ストレッチや体操を実施する。	地域とのつながりの維持、高齢者への情報提供、高齢者のフレイル予防	第2層協議体で検討 第2層協議体で取組み			
05	令和3年3月31日	令和2年10月1日	高陵	情報の共有 活動の担い手 交流 活動の場	新型コロナウイルス感染予防、新たな生活様式に配慮した活動	高齢者など日頃の見守りや安否確認に関する活動を実施 配食や個別訪問の実施、古切手・カード等の整理ボランティア、社協が発行するチラシ等の配布、活動に使用するステッカーの作成	高齢者の安否確認、地域とのつながりの維持、高齢者への情報提供、高齢者のフレイル予防	第2層協議体で検討 第2層協議体で取組み			
05	令和4年3月29日		高陵	交流 活動の場	小学校閉校後の活動について	各自治会館・集会所でサロン活動を検討	近隣開催による参加者の増加	第2層協議体で検討			
05	令和3年10月7日		高陵	情報の共有 活動の担い手 交流 活動の場	コロナ禍に配慮した閉校記念行事	文案による交流会など伝統文化を大切にしてきた活動もあったため、劇や演奏関係での交流会を提案する	地域とのつながりの維持	その他	済	令和3年10月15日に開催	
05	令和3年3月31日	令和2年3月31日 令和2年10月6日	山田	情報の共有 活動の担い手 交流 活動の場	地域の担い手が高齢化により不足している。民生・児童委員さんも欠員で、改選の影響もあり見守り活動の引き継ぎも含め、お一人あたりの活動範囲が広く負担が大きい様子。次世代の担い手を増やしていく必要がある。	校区全体で世代間交流できる行事を継続し、次世代の担い手を発掘していく。 第2層協議体会議の機会に構成団体の状況を情報共有し、小地域の結束力がある強みを生かし、担い手の発掘や担い手の負担を軽減できるような取り組みの検討もしていけたらと考える。（高齢者居場所事業の発展等） 5自治会のうちの1か所が令和3年4月から3年計画で取り組む予定の見守り活動進捗を校区で共有していく。	担い手の発掘 高齢者の孤立化予防	第2層協議体で検討 第2層協議体で取組み			
05	令和3年3月31日		山田	情報の共有 活動の担い手 交流 活動の場	老人会活動について協議会でその課題を認知してもらい、自治会の結束力を生かして校区全体で元気づくりが進む取組みが必要	校区全体で高齢者の元気づくりを検討	高齢者の介護予防	第2層協議体で検討 第2層協議体で取組み			
05	令和2年10月6日	令和2年3月31日	山田東	情報の共有 活動の担い手 交流	地域活動の担い手や活動に参加する男性比率がとて少ない。 地域活動の担い手に若い人材が乏しい。高齢化が進んでい	山田東校区の強みを知っていただきたい。	担い手不足の課題へ、地域の強みを生かして、取り組めること等の意見交換が進む。	第2層協議体で検討			
05	令和4年3月31日	令和3年3月31日	山田東	情報の共有	コロナ禍で以下の課題は持ち越している。構成団体で情報共有の機会は持てなかったが、そのうちの福祉委員会（少数）は継続できた。 ①地域活動の担い手や参加者に男性が少ない。 ②地域活動の担い手に若い人材が欲しい。	持ち越し課題①②について、地縁組織の結束力ある校区の強みや集う場が町会単位であり、芝のグラウンドがある小学校という環境を生かし、課題への対策が進むよう意見交換する。	第4次校区福祉のまちづくり計画策定内容との相乗効果	第2層協議体で検討			

圏域	提出日（最新）	計上歴	小学校区	課題区分	課題	提案	効果	今後の方向性	結果	取組内容	備考
05	令和3年3月31日		中宮北	情報の共有 活動の担い手 交流 活動の場	校区の中で世帯数を多く占めるUR住宅の高齢化率が高く自治会加入率も低いので虚弱な世帯の把握が自治会毎には難しく、民生委員も欠員で一人当たりの負担が大きい。コミュニティ全体で活動を工夫し、独居高齢者の把握に努めている。URに生活支援アドバイザーが配置された方針が、地域のニーズと合致するため、有機的なつながりにできる体制整備が必要。	校区地域ケア会議開催	見守り体制と支援につながる連携構築が進む。	第2層協議体で検討			
05	令和3年3月31日		中宮北	情報の共有 活動の担い手 交流 活動の場	集いの場はUR集会所2か所と小学校に限られており、集会所1箇所は高齢者居場所登録箇所でもあるが、コロナ禍でさらに活動低迷中。昨年度代表者変更の影響もありコンセプトが踏襲できていない。それら改善対策が必要な状況。	高齢者居場所登録箇所の活性化(地域、UR、包括の連携)	高齢者の孤立予防と介護予防が進む。	第2層協議体で検討			
05	令和3年3月31日		中宮北	情報の共有 活動の担い手 交流 活動の場	高陵小学校と中宮北小学校の統合計画の影響についてコミュニティ協議会が不安に思っている事について課題を整理していく必要がある。	校区合併毛核振興によるコミュニティ協議会への影響を予測し、地域づくりへの課題(資金・場所・担い手)を整理し活動方針を検討していく。	第2層協議体の活動方針(地域包括ケアシステム構築に向けて、対象者を高齢やに限定せず乳幼児から高齢者・健常児(者)や配慮のいる方など全ての中宮北校区住民を対象とする)がぶれずに話し合いを進められる。	第2層協議体で検討			
06	令和4年3月31日		桜丘	情報の共有 交流 活動の場	コロナ禍で老人会の活動ができず、高齢者のフレイルが問題視されている。	第2層協議体会議にてフレイルについて学び、枚方市作成の「ひらかた夢かなえるエクササイズ」の体験をする。	開催延期につき次年度（令和4年度）以降に持ち越し	第2層協議体で検討 第2層協議体で取組み			
06	令和3年9月30日	令和3年3月31日	桜丘	情報の共有 交流 活動の場	コロナ禍で老人会の活動ができず、高齢者のフレイルが問題視されている。役員のモチベーションも低下している。	活動休止中の老人会に対し、新しい生活様式で活動に取り組むためにノルディックウォーキングの教室開催や活動の自主グループ化を提案。	先行した取り組みをはじめた老人会からの活動紹介や体験会を通じて、活動を再開する老人会が出始めた。老人会同士の交流等にもつながる。 令和3年度後半では、各グループのリーダーの情報交換会を予定している。	第2層協議体で検討 第2層協議体で取組み	済	前年度（令和2年度）先行してノルディックウォーキング活動を開始した地区にてノルディックウォーキング教室を定期的に開催。また先行地区をモデルとして、本年度（令和3年度）は他3地区での活動開始も支援。コロナ禍でも可能な高齢者の活動量アップや見守りの強化を図ることができた。 活動報告を行ったグループ内での意欲の向上を図ることができた。また、活動報告を受け、他グループでの手法を取り入れた活動の発展を検討することができた。	
06	令和3年9月30日	令和3年3月31日	桜丘	情報の共有	令和2年度に民生委員の改選があり、ベテラン民生委員から4名の新任民生委員に交代になった。しかし、コロナ禍で民生委員の会合も開催されず、新任民生委員のフォロー体制が希薄となっており、サポートが必要。	新任民生委員の孤立と抱え込み防止策について校区長と相談する。集まることが出来ないため、電話でのヒアリングを提案	新任民生委員等への定期的なヒアリングを実施。情報収集しながら、個別事例の解決等につなげていく。	第2層協議体で検討 第2層協議体で取組み	済	令和2年度には、ヒアリングにより「こんな時はどこへ相談すればよいのか？誰がどの程度関わっていけばよいのか？」といった疑問を把握。第2層協議体や包括の役割・業務の案内、緊急通報装置や安心カプセル等の紹介を行うことを通して不安や疑問の解消を図ることができた。 令和3年度には、コロナ禍が続くなか、昨年度（令和2年度）に得た状況把握手段を継続できていることが確認できた。	
06	令和4年3月31日		桜丘	情報の共有 活動の担い手	災害時等の安否確認手段が訪問を主としている。地域活動の担い手の高齢化が見込まれる中で、継続可能かつ安全な手段や方法の模索と習慣化が必要。	スマートフォンの活用等の紹介	災害時のスマートフォン活用についての知識を得ることができたが、高齢者が臆することなくスマートフォンを活用できるようなサポート体制の構築に向けて検討していく。今後もスマートフォン使用についての教室を開催する。	第2層協議体で検討 第2層協議体で取組み			
06	令和3年9月30日		桜丘	情報の共有 活動の担い手	災害時等の安否確認手段が訪問を主としている。地域活動の担い手の高齢化が見込まれる中で、継続可能かつ安全な手段や方法の模索と習慣化が必要。	スマートフォンの活用等の紹介	8/24第2層協議体にて検討予定→11/4へ延期	第2層協議体で検討 第2層協議体で取組み	済	携帯電話会社の協力を得て、災害時のスマートフォンの活用等の紹介講座を開催した。	
06	令和3年3月31日		桜丘北	情報の共有 活動の担い手 交流 活動の場	自治会加入率が低下しており、回覧板が回らない家が増加傾向になっている。高齢者が情報弱者となる懸念がある。	直接、講師から学べる形式でのスマホ教室の開催を提案する。	LINE等で連絡をとることが出来れば、災害時の連携もしやすくなる。ITやICTの活用充実につながる。	第2層協議体で検討 第2層協議体で取組み			
06	令和4年3月31日		桜丘北	情報の共有	コロナ禍による自粛で、高齢者のフレイルが課題となっている。また、くらわんかウォークーズで皆が集まって歩く機会を持つが、参加者が少ない。	「保健事業と介護予防の一体的実施事業」のポピュレーションアプローチ実施校区とする。 「認知症サポーター養成講座」開催時に、「くらわんかウォークーズ」の活動が認知症予防や介護予防につながっていることも伝える。	高齢者のフレイル予防を図る。また、日々の活動の意義を再確認することでチームワークをより強くすることができる。	第2層協議体で検討 第2層協議体で取組み			
06	令和3年9月24日	令和3年3月31日	桜丘北	情報の共有 活動の担い手 交流 活動の場	新型コロナの感染予防のため、地域での集まり等が開催できず、高齢者のフレイルが懸念される。	老人会や街かどデイハウスで「くらわんかウォークーズ」の紹介や体験会の開催を行う。 活動が休止していた老人会等に老人会活動の現状や困りごとをヒアリングの上、老人会や街かどデイハウスで「くらわんかウォークーズ」の活動を提案。	身体を動かす機会も減っていたため、健康増進にもつながり、人と関わる機会を持つ事ができる。また、老人会同士の横のつながりも生まれる。	第2層協議体で検討 第2層協議体で取組み			
06	令和4年3月31日	令和3年9月24日 令和3年3月31日	桜丘北	情報の共有	令和2年度に民生委員の改選があり、ベテラン民生委員から4名の新任民生委員に交代になった。しかし、コロナ禍で民生委員の会合も開催されず、新任民生委員のフォロー体制が希薄となっており、サポートが必要。	新任民生委員の孤立と抱え込み防止策について校区長と相談する。集まることが出来ないため、電話でのヒアリングを提案	新任民生委員等への定期的なヒアリングを実施。情報収集しながら、個別事例の解決等につなげていく。	第2層協議体で検討 第2層協議体で取組み			
06	令和3年9月24日		桜丘北	活動の担い手	コーディネーターの担い手が居ない。	福祉の校区委員長は、今までも地域の取り組みに関しての会議にも参加し、コーディネーターとしての役割もご理解いただいていた為、選任を提案する。	校区委員長：塚田氏をコーディネーターに配置する事により、地域発信で活動する事を意識づける事が出来る。	第2層協議体で検討 第2層協議体で取組み	済	令和3年10月、校区委員長：塚田氏をコーディネーターに選任。	
06	令和3年9月24日		桜丘北	情報の共有 活動の担い手 交流 活動の場	スマートフォンを使いこなせていない高齢者が多く、情報弱者となる懸念がある。災害時等の連絡体制の環境整備が必要。	第2層協議体にて、コミュニティや民生委員等のニーズ聞き取り。 これを受けて、出張スマホ教室の対応可能な携帯ショップを探し、校区内でのスマホ教室開催を提案する。	スマートフォンに普段から慣れておくことで、災害時等の非常事態の際に、LINE等で連絡を取る事を目指す。	第2層協議体で検討 第2層協議体で取組み			
06	令和4年3月31日		桜丘北	情報の共有	校区の主要メンバーが意見交換する場がなく、各校区の活動内容がわからない状況にある。	「第6圏域 元気づくり・地域づくり 情報交換会」を開催し、校区の主要メンバーに集まって頂き、情報交換する場をもつ。	各校区の活動内容を知ることにより、各校区の活動力が上がる。	第2層協議体で検討 第2層協議体で取組み			

圏域	提出日（最新）	計上歴	小学校区	課題区分	課題	提案	効果	今後の方向性	結果	取組内容	備考
06	令和4年3月31日	令和3年9月30日 令和3年3月31日	中宮	情報の共有 活動の担い手 交流	コロナの影響で新任の民生委員同士の顔合わせが思うようにできず、活動していくうえでの悩み事を抱え込んでいる恐れがある。	電話等での定期的なヒアリングの実施や校区長との連携や新任民生委員からの個別相談に随時対応することで、必要な情報提供や相談対応を行う。	定期的なヒアリングを行うことで不安の軽減につながる。	第2層協議体で検討 地域包括支援センターで対応			
06	令和4年3月31日	令和3年9月30日 令和3年3月31日	中宮	情報の共有 交流 活動の場	コロナの影響で地域の活動が減少したことで、高齢者の閉じこもりやフレイルが進行している。	「かんたん体操とグラウンドゴルフの会」を継続。老人会を対象に「くらわんかウォークス」の活動提案を継続。密を防ぎながら運動することで、参加者自身の健康維持につなぐことができる。	仲間と一緒に活動することで閉じこもりやフレイル予防につながる。「くらわんかウォークス」での見守り活動を同時に行うことで参加者自身が地域で役立っていることを実感し、モチベーションが向上でき、地域交流が促進できる。	第2層協議体で検討 活動のサポートを行う			
06	令和3年9月30日	令和3年3月31日	中宮	交流 活動の場	定年退職後（シニア層）の男性の活動・活躍の場がなく、地域との関わりが希薄になっているケースが見られる。	「かんたん体操とグラウンドゴルフの会」や「おたすけメイト」への参加を促すことで、活動の場づくりにつなげる。	地域での身近な活動に参加することで、地域活動への興味や関心を促し、男性の活動・活躍の場の一つにつながる。	第2層協議体で検討 第2層協議体で取組み			
06	令和4年3月31日		中宮	活動の担い手 交流 活動の場	令和4年1月から地域の支えあい・助け合い活動として、「中宮おたすけメイト」を本格実施しているが、活動依頼がない状態が続いている。	民生委員から一人暮らし高齢者に再度活動の周知を行っているが、併せて地域の居宅介護支援事業所等にも周知を継続する。支え手であるメイト同士が意見交換や交流できる場を定期的に持つ。	地域の一人暮らし高齢者等への周知やインフォーマルサービスの一環として介護支援専門員等に活動を周知することで活動依頼の増加に繋がる。また、活動の機会を増やすことでメイト自身のモチベーション維持にも繋がる。	第2層協議体で検討 第2層協議体で取組み			
06	令和4年3月31日	令和3年9月25日 令和3年3月31日	明倫	情報の共有 活動の担い手 交流	コロナ禍で新しい民生委員さんとの顔合わせができず、困り事を相談できずに抱え込んでいる可能性がある。	定期的なヒアリングを実施し、校区長と連携、必要な情報提供や相談対応を行う。	必要な情報提供を行い、ヒアリングを実施することで不安の軽減につながる。また個別事例の解決に地域ケア会議の活用にもつなげていく。校区長や他の民生委員と連携をとり、経験の浅い民生委員とは一緒に動くことなどとして対応する。	第2層協議体で検討 地域包括支援センターで対応			
06	令和4年3月31日	令和3年9月25日 令和3年3月31日	明倫	情報の共有 交流 活動の場	コロナ感染症により、地域の活動ができなくなり、高齢者の閉じこもりやフレイルが進行している。	ひとり暮らし老人会の活動に「くらわんかウォークス」を提案し、体験会からグループ活動につなげる。新しくできた薬局と協力し、地域の高齢者を対象に健康講座や測定などを行っていく。	ひとり暮らし老人会にとどまらず、仲間を増やしながら地域の高齢者の活動の場として定着することで、交流・フレイル予防につながる。	第2層協議体で検討 活動のサポートを行う。			
06	令和3年3月31日		明倫	交流 活動の場	定年退職後の男性の活動・活躍の場がなく、閉じこもりがちな生活を送っている方もいる。	地域の商店の協力を得て、地域の懐かしい写真の写真展を開催し、地域との関わりが薄くなりがちな方への外出のきっかけづくりをする。	運動には興味はないが、文化的活動に興味がある方の外出のきっかけをつくることできる。地域活動へ興味を持ってもらうことができる。	第2層協議体で取組み	済	令和3年7月22日から8月5日に開催。 地域でも評判となり、何度も足を運んでくれた方、遠方の家族にも声をかけてくれた方、自分も参加したいと思ってくださった方等活性化につながった。	
06	令和4年3月31日	令和3年9月25日	明倫	情報の共有 活動の担い手 交流	ワクチンの予約や、コロナ禍で活動がうまくいかず困っている。リーダーになってくれる方の負担軽減が必要。高齢者がタイムリーな情報や地域の情報を得にくい状況にある。スマートフォンを利用するハードルが高い。	携帯電話会社と調整し、スマホ教室の定期開催	ワクチンの予約ができたり、くらわんかウォークスの活動調整がグループラインを使うことで容易にできるようになり、活動しやすくなる。ウォーキングのコースの検索や、行き方、交通機関の時刻表など活動の範囲を広げ、仲間と共有して外出できるようになる。情報検索の技術向上を図る。	第2層協議体で検討 その他(包括で対応)			
06	令和4年3月31日		明倫	活動の担い手 交流 活動の場	認知症になっても住み慣れた地域で周囲の理解や支援を得ながら生活していくための環境調整が必要	オレンジカフェを宮ノサボのサポーターと開催し、認知症の当人も家族も地域の方々も集うことにより理解を深め、認知症になっても住みやすい地域を目指す。	くらわんかウォークスのメンバーの中に見守りをしながらサポートをしている人がいる。一緒に参加することでお互いの理解がさらに深まる。	第2層協議体で検討 その他(包括で対応)			
07	令和2年3月31日		伊加賀	情報の共有 交流の場	新たな参加者が増えない。また活動場所を知らない人もいる。	地域マップの作成を行い、活動の周知を行い、新たな参加者を増やす取組み	一(未記載)	第2層協議体で検討			
07	令和元年10月1日		伊加賀	交流 活動の場	活動スペースが現状2か所しかなく、参加できる人とできない人の偏りが大きい。	高齢者施設の食堂スペースを活用	これまで活動に参加したくても、できなかった人へ外出の機会を期待している。	第2層協議体で取組み			
07	令和3年10月7日		伊加賀	情報の共有 活動の担い手 交流 活動の場	コロナ禍の中で気軽に集まりにくい。老人会としてのお誘いしても「自分はまだ老人ではない」と言われてしまう。	福祉委員会ではウォーキング活動(密を避けた活動)をさせている。例えば、自治会、老人会との共催や連携により、老人会の会員・非会員の相互交流・相互理解に繋がる可能性も考えられる。	老人会 会員・非会員の交流 健康維持、フレイル予防	その他			
07	令和4年3月29日		伊加賀	情報の共有 活動の担い手 交流 活動の場	コロナ禍により地域福祉活動が制限される中で、老若男女が健康維持や交流する場	ウォーキング活動の拡大。作品展など、外出を自粛する人が自宅等で作品を創作し、出店する場	健康維持・フレイル予防	第2層協議体で取組み			
07	令和2年3月31日		さだ	交流	各老人会や地域でのサロン等、参加されない人の参加を促すために、どのような内容ならば参加を考えてもらえるかを考慮した。	校区全体で集いの場とし、R2年度中に①歌う会（参加者全員がコーラス）、②シニア食堂（男性向け料理教室など）を開催する。場所は集まりやすいさだ生涯学習市民センターの各自治会、老人会で自治会館を利用出来ていないところもある。隣り合っているサロンの時に、まず役員に見に来てもらい、お互い行き来ができるように、さだ校区の中で交流を密に出来るようにしていければ。	実施後に評価する。	第2層協議体で取組み			
07	令和2年10月1日	令和元年10月1日	さだ	交流 活動の場	情報共有を目的に、各自治会、老人会での取組みをまとめて会議で共有ができた。同じ人の参加が主になってしまっているということが全ての集まりから出ている。参加されない人への声かけをどうしていくか、サロン内容をどう充実させていくかが課題		今後後期の会議時に具体的に深めていく。	第2層協議体で検討 第2層協議体で取組み			
07	令和元年10月1日 令和2年3月31日		さだ東	活動の担い手	老人会のメンバーも高齢になり、登録されているが集まりに出てこないメンバーをどのように出てきてもらうか。また会の役員をどのように集めるか。	各取組みの良いところを参考に、会の内容をいかに魅力あるものにできるか、今後も情報共有する。	継続検討	第2層協議体で検討 第2層協議体で取組み			
07	令和2年3月31日	令和元年10月1日	さだ東	活動の担い手	老人会のメンバーも高齢になり、登録されているが集まりに出て来られない人にどのように参加してもらうか。また役員の担い手をどのように集めるか。	今後も、各取組みの良いところを参考にできるように情報共有していく。	一(未記載)	第2層協議体で検討 第2層協議体で取組み			
07	令和元年10月1日		さだ西	交流	年間10回元気づくり地域づくりの取組みを定期的に施行。参加者の健康維持、フレイル予防等を目的に必ずひらかた元気くらわんか体操を取り入れて開催している。登録者数は増えてきているが、男性参加者が殆どいない。	昨年度末より、男性参加者に興味理解を得て参加を促す取組みの入り口として夕方の時間から男性主体の居酒屋を開催	初回と人数的には変わらず参加者を集める事に苦慮している。	第2層協議体で検討 第2層協議体で取組み			
07	令和3年11月2日		さだ西	情報の共有 活動の場	参加者の殆どが女性、男性の参加が殆どない	他校区開催の情報の取り寄せ	一(未記載)	第1層協議体へ提案			
07	令和4年3月31日	令和3年11月2日	さだ西	活動の場	屋外での開催 参加者も毎回20名前後と安定しているが、これ以上の参加者が見込まれる中、開催方法・開催場所を検討。	年2回ほど屋外での開催ができないか 定員40名程度の広い会場を検討（臨時保育室(旧サダ西幼稚園)など）	開催場所までのウォーキングもできる	第2層協議体で検討			

圏域	提出日（最新）	計上歴	小学校区	課題区分	課題	提案	効果	今後の方向性	結果	取組内容	備考
07	令和4年3月31日		さだ西	情報の共有	マンネリ防止、新しい取り組み	枚方体操、演歌体操は継続して、体を動かす簡単なスポーツを模索 他校区開催の情報を取り寄せる	飽きずに継続しての参加期待 新しい内容の取得	第2層協議体で検討			
08	令和元年9月30日		枚方	情報共有	上之町団地の実態把握が必要。虚弱高齢者が生活困窮に陥っている。事例が続いている。自治会長はいるが、コミュニティ会議などには出席がない。民生委員は任命されているが団地在住ではない。独居リストは把握しているが、それをオープンにしての訪問は個人情報関係からできない。	上之町団地の虚弱把握を地域包括支援センターが実施するのはどうか。 独居リストを提供してもらい、クローズで訪問し、アウトリーチを行っていく。	上之町団地の個別訪問を行うことで、新たな虚弱把握につながった。 自治会長へ訪問について説明し、了解を得ることができた。会長には苦情等にて報告が入っており、直接自治会が地域包括支援センターへ依頼する形ができれば。	第2層協議体で取組み			
07	令和4年3月31日		枚方	情報共有	校区内団地において、郵便が溜まっていたため安否確認後、救急搬送されたなどの事例があった。 亡くなっている方、転居しているなど情報整理を行っていき、安否確認が必要な方などの把握をしていく必要がある。	令和4年4月から始まる「保健事業と介護予防の一体的実施事業」の説明紹介を行い、事業への協力を提案した。校区内のいきいきサロン、定例会、福祉部会を通して、同事業を展開する了承を得た。	ハイルスクアプローチやボビュレーションアプローチを地域活動者と協働し、実施していくことで、校区内の健康増進の促進ができる。	第2層協議体で取組み			
08	令和元年9月30日		山之上	情報共有	空き家問題などが多くある。また、高齢化率が最も圏域で高い地域であり、加齢にともなう認知の低下による後見の相談も多くある。今後、地域のニーズに合わせた住民啓発が必要ではないか。	校区にて相続等の相続後見セミナーについて実施する。	認知症高齢者への権利擁護につながる。	第2層協議体で検討			
08	令和元年9月30日		山之上	活動の担い手	体操普及の講座であるマスター教室に参加したが、南部生涯学習市民センターなど近い場所で講座があれば参加しやすいのではないか。	内容が薄いようにも思う。介護予防に関することを3回ぐらいいに分けてしっかり講義してほしい。	介護予防分野の担い手が充実する。	第1層協議体へ提案	済	令和3年度第1回第1層協議体にて検討。体操の観点から枚方市通所・訪問リハビリテーション連絡協議会、また地域での活動・担い手の観点から枚方市校区福祉委員会協議会、枚方市民生委員児童委員協議会、枚方市老人クラブ連合会及び枚方市校区コミュニティ連絡協議会にご意見をいただき、それを参考に地域包括支援センターが校区の役員等を支援し、まずできる範囲で取り組んでいくこととした。	
08	令和元年9月30日		山之上	課題共有	男性の高齢者の活躍や社会参加を考える必要がある。南部生涯学習市民センターなど近い場所で講座があれば参加しやすいのではないかな。	南部生涯学習市民センターで男の料理教室の実施。また、より地域に密着した山之上公民館での介護予防の実施	より地域に密着した男性の活躍の場の推進	第2層協議体で検討			
08	令和3年3月31日		山之上	情報共有 活動の場	山之上公民館、宮ノ下集会所の2か所での活動となっている。感染対策を講じての活動をどのように継続していくのか。	屋外活動を含めての元気づくり拠点など検討をしていく。	参加しやすい活動拠点が增えることで、地域の介護予防が進む。	第2層協議体で検討			
08	令和4年3月31日		山之上	活動の場	活動中止から、役員交代で体操を知らない方がいる。運動指導の必要性がある。活動再開の関しての通知はどのように行うのか？感染予防の実施について検討していく。	11月は役員に対しての運動指導。 感染予防についての対策をしていく。	元気づくり地域づくり会議の開催と、介護予防センターの活動は継続するととなった。	第2層協議体で取組み		検温、消毒、マスク、ソーシャルディスタンス、空気清浄機購入	
08	令和4年3月31日		山之上	情報共有	地域の居場所や活動の拠点等の社会資源を把握していく必要がある	地域で集まって体操や趣味活動等をしている所を地域活動を行っている地域の皆さんと一緒に把握していく。	社会資源の把握をすることによって、高齢者が地域で自分らしく元気に暮らせる環境整備ができる。	第2層協議体で取組み			
08	令和4年3月29日		枚方第二	活動の場	これまでの自立支援地域ケア会議等から、枚方第二校区内の高齢者の生活課題として、勾配が急な坂があり、外出ができないなど、移動方法がない問題がある。	枚二ふくし寄席が事業開始となる際に、移動補助を行う案が示されたが、事業への明確な位置づけを提案した。	高齢者の移動の問題について、その地域課題を校区コミュニティ等と共有することで、補助事業が展開していくこととなり、生活課題を解決することにつながる。	第2層協議体で取組み			
08	令和3年9月30日		枚方第二	その他	2020年2月以降、枚二みつばの実施ができておらず、地域の高齢者フレイルを予防する必要がある。	枚二みつば生活アンケートにて安否確認を行うとともに、フレイル予防をアンケートに盛り込み、予防チラシも同封し、住民への啓発運動を行う。	124名の安否確認ができた。未確認20名については、民生委員が訪問を行い確認をとることができた。各団体と、連携を取ることができた。	第2層協議体で取組み	済	フレイル予防をアンケートに盛り込み、予防チラシも同封し、住民への啓発運動を行う。	
09	令和2年3月31日		開成	活動の担い手	交流や元気づくりの企画や運営が会議の構成メンバーの負担になっている。	企画に応じて各委員会・他機関と共催していく。	次年度から検討予定	第2層協議体で検討			
09	令和2年3月31日	令和元年10月4日	開成	交流	交流や元気づくりの企画を行っている参加メンバーがいつも同じで、新規の参加者がいない。（人を集めた企画になっている。）	企画の内容をニーズに合わせる。	取組み途中で効果は不明	第2層協議体で取組み			
09	令和3年9月30日	令和3年3月31日	開成	交流 活動の場	新型コロナウイルス感染拡大の影響で、どの地区も活動休止。コロナ禍でもできる健康づくりの検討が必要。	「集まらなくてもできる健康づくり」あるいは「屋外でできる活動」の具体策を検討。開成校区独自のラウンドゴルフチェック設立を目指す。	取組み途中で効果は不明	第2層協議体で検討 第2層協議体で取組み			
09	令和3年9月30日	令和3年3月31日	開成	活動の担い手	会議構成員に校区福祉委員と兼任者も多く、活動の負担が増している。	構成員メンバーの見直しや活動の方向性を再確認する。	次年度から検討予定	第2層協議体で検討			
09	令和2年3月31日	令和元年10月4日	香陽	活動の担い手	「おたすけメイト」の活動のモチベーション維持	メイト頼りを発行（依頼内容等のデータ） メイトの座談会企画 「おたすけメイト交流会」の開催	活動の状況を知る事や交流を通じモチベーション維持 新しいメイトの発掘に繋がる	第2層協議体で取組み	済	メイト頼りを発行（依頼内容等のデータ） メイトの座談会企画 「おたすけメイト交流会」の開催	
09	令和2年3月31日	令和元年10月4日	香陽	活動の場	活動の拠点となる場所がない。	自治会の集会所等を会員外も利用させていただけるよう役員へ働きかけ	コミュニティ全体で集会所の有効活用	第2層協議体で取組み			
09	令和2年3月31日	令和元年10月4日	香陽	活動の場	健康意識の高い人が多いが身近な場所で運動できる場がない。	運動の連続講座をきっかけに自主運動グループの立ち上げ（2か所目）地域元気づくり教室補助金の活用	興味を持った人が集まるので身近な運動の拠点となる。	第2層協議体で取組み			
09	令和2年3月31日	令和元年10月4日	香陽	活動の担い手	地域の支え合い活動「おたすけメイト」を立ち上げたが周知が難しく依頼が少ない。	民生委員が対象者に案内 「けんぎゅう祭り」に説明ブース設置 老人会や一人暮らし老人会、サロン等、高齢者の集まりの場で案内 香陽コミュニティだよりに記事掲載	少しずつであるが依頼が来ている。	第2層協議体で取組み			
09	令和3年3月31日		香陽	活動の担い手	地域の支え合い活動「おたすけメイト」を立ち上げたがコロナ禍で依頼がない。	感染予防対策を万全に。火災報知器の交換が難しい世帯について、自治会を通じて購入して設置の手伝いをしてはどうか。	屋外作業のみ対応	第2層協議体で取組み			
09	令和3年3月31日		香陽	活動の担い手	「おたすけメイト」の活動のモチベーション維持	コロナ禍で依頼が少なく、交流会等も難しい。	—(未記載)	第2層協議体で取組み			

圏域	提出日（最新）	計上歴	小学校区	課題区分	課題	提案	効果	今後の方向性	結果	取組内容	備考
09	令和3年3月31日		香陽	活動の場	コロナ禍でソーシャルディスタンスをキープできる場所がない。	「元気づくり教室」の会場として校区外の「聖徳文化ホール」の使用を依頼	校区外であったが地域の活動の拠点として、開放していただけるようになった。	第2層協議体で取組み	済	令和2年10月から「元気づくり教室」の会場として校区外の「聖徳文化ホール」を使用	
09	令和3年9月30日	令和3年3月31日	香陽	活動の場	健康意識の高い人が多いが、身近な場所で運動できる場がない。	運動の連続講座をきっかけに自主運動グループの立ち上げ：2か所目（地域元気づくり教室補助金の活用）	興味を持った人が集まるので、身近な運動の拠点となる。（コロナ禍にて中断）	第2層協議体で取組み			
09	令和4年3月31日		香陽	活動の担い手	地域の支え合い活動「おたすけメイト」の依頼内容を引き受けるか判断に迷う。	二人対応。 依頼をした方の困りごとのアセスメントが必要ではないか。	依頼者に地域包括支援センターアイリスに相談するように案内	第2層協議体で取組み			
09	令和4年3月31日	令和3年9月30日	香陽	活動の担い手	「おたすけメイト」のコーディネーターが辞意を示している	地域の状況やメイト活動を理解している方に自薦、他薦問わず説明する	推薦者複数名あり説得中	第2層協議体で取組み			
09	令和4年3月31日		香陽	活動の場	コロナ禍で自粛生活が長引き、高齢者の機能低下が進んでいる。	感染の動向を見ながら、地域貢献として健康運動指導士が協力し運動教室を単発開催。	身近な会場で開催し、運動教室の自主グループの基盤づくり。	第2層協議体で取組み			
10	令和2年10月7日		東香里	活動の担い手	高齢者の居場所づくりの場としては定着してきているが、活動者の大半の意識が事務的な運営（受付当番等）にとどまっており、積極的な場の運営にかかわっていない。	参加者の中からサロン運営はまだまだ積極性がなく現状は役員任せになっているが、共に協力の形もあって良い。	場の活動にかかわる人が増えることで、参加者からの活動の提案が出てくることが期待される。	第2層協議体で検討 第2層協議体で取組み			
10	令和2年10月7日		東香里	活動の場	新型コロナウイルス感染拡大防止対策の中で、参加者が場に出て来る意欲を持てるように考える。	換気、机の配置や座り方、活動の内容を考慮し、「密」にならずに交流できるように対策する。	安心して積極的に足を運んでもらえるようになる。	第2層協議体で検討 第2層協議体で取組み			
10	令和3年3月31日		東香里	交流 活動の場	コロナ禍にあっても高齢者は出かける場所や人との出会いを求めている。また、外での食事を楽しみにしている。新型コロナウイルス感染拡大防止に留意し、安心安全な高齢者の居場所を作る。	窓や扉を開けて換気に努め机の配置や座り方を工夫することで「密」を作らないようにする。活動の内容を考慮し、会話を控えながら交流できるよう工夫する。	安心して外出し、人との関わりや活動を楽しんでもらえるようになる。	第2層協議体で検討 第2層協議体で取組み			
10	令和4年3月31日		東香里	交流 活動の場	参加する人の顔ぶれが固定されてきている傾向にあるので新規の参加者の参加を促したい。	運営団体である自治会や老人会の集まりの時にサロンの紹介をする。 住民回覧の回数を増やし、情報を届ける。	広く情報を伝えることで、新しい参加者の参加が期待できる。	第2層協議体で検討 第2層協議体で取組み			
10	令和3年10月11日		東香里	交流 活動の場	長引くコロナ禍の自粛生活の中で、高齢者は今まで以上に人との出会いや会話、会食を求めている。新型コロナウイルス感染拡大防止に十分留意し、安心安全な高齢者の居場所を作る。	机の上にアクリル板を設置する。窓や扉を開けて換気に努める。机の配置や座り方を工夫する。その上で活動の内容を考慮し、会話を控えながら、交流できるように工夫する。	高齢者が安心して外出し、人との関り活動を楽しめる場所を提供できる。	第2層協議体で検討 第2層協議体で取組み			
10	令和3年3月31日		春日	交流 活動の場 その他	新型コロナウイルス感染症の収束が見えず、高齢者への感染を危惧し活動が停滞している。	感染予防を徹底して、少人数で活動できるような事業を考え分散開催する。	事業、活動の場を多くすれば参加者が外出し交流が広まる。	第2層協議体で検討 第2層協議体で取組み			
10	令和3年10月8日	令和2年10月8日	春日	活動の担い手 交流 活動の場	校区住民全員を参加対象にすると、活動の場まで遠い人がいる。 参加メンバーが同じで、新規参加者、男性の参加者が増えない。コロナ禍で行事開催できない。	各自治会同士の交流を活発にし、他自治会員も参加できるようにする。 近隣自治会が共催方式で実施する。(老人会が中心) 校区老人会会議で新規事業の検討(計画・実施を含む)を行ってもらう。活動後、参加者の意見、感想などを聞く場を設ける。 行事に参加するだけでなく、参加者にも進行を手伝ってもらう。	隣接自治会では距離も近く参加者の増加が見込め交流が広がる。 共催方式で行えば、交流の場が広まり顔見知りも増え参加者の増加を見込める。 活動に何を求めているのかを把握し今後の参考にする。 活動の進行を手伝ってもらうことにより、違う目線での意見などがもらえる。	第2層協議体で検討 第2層協議体で取組み			
10	令和4年3月31日		春日	活動の担い手 交流 活動の場 その他	コロナ禍で行事中止が多くなり、開催しても参加者が減少している。 新規行事(屋外)を行うにも場所がない。 若手の担い手が出てこない。	コロナと対峙し感染予防を徹底していることを広報する。 近隣自治会で共催方式を取り屋外でできる場所、内容を検討する。 現役世代が参加できるよう日・祝日に行事を開催する。	コロナ禍以前の参加者が見込まれる。 屋外であれば感染率も少なく参加者の増加が見込める共催であれば交流の場も広がる。 現役世代が参加することにより、新規行事の提案、これからの担い手が出てくる可能性がある。	第2層協議体で検討 第2層協議体で取組み			
11	令和1年10月23日		菅原	情報の共有	社会資源として既に活動しているサークル等の集まりは存在しているが、その情報が一元化されていない。	菅原校区に対し、回覧板にアンケートを挟んでいただき、地域住民がどの程度まで社会資源を把握されているのか確認す	情報の把握度合いを知ることと、今まで知らなかった集まりの情報も得られる可能性がある。	第2層協議体で取組み			
11	令和2年3月31日		菅原	情報の共有	地域で様々なサロン等の集まりやイベントを定期的に行ってはいるが、開催場所や何を行っているのか情報を知らない方が'少なくない。	集まりの公式なパンフレットの作成を包括と共に作成し、掲示板や商店等の目立つ場所に掲示する。	固定気味である既存の集まりの場に新たな参加者を呼ぶことが出来る。そこで今後、役を担っていただける人材を発掘することが出来る。	第2層協議体で取組み			
11	令和4年3月31日	令和3年10月6日 令和3年3月31日	菅原	活動の担い手 交流 活動の場	コロナ禍のため、活動する場所も活動する人も、参加する人もいない状態。活動開催が不安定。 リーダーシップをとる人がいない。	コロナ禍のためどうしてもできない状態 コロナの感染者状況を踏まえ、可能な限り開催するしかないかもしれない。	一(未記載)	第2層協議体で検討			
11	令和4年3月31日		菅原	活動の担い手 交流 活動の場	老人会等の後任会長が決まらないため、活動が休止状態になっている。会の中から代表を選出するにも、高齢であるために難しい。	比較的若い高齢者層を巻き込んでいく必要があるので、活動の周知に注力する。	一(未記載)	第2層協議体で検討			
11	令和4年3月31日		菅原	活動の担い手 交流 活動の場	男性の地域活動参加が少ない	特に男性に魅力的な活動の検討	一(未記載)	第2層協議体で検討			
11	令和1年10月23日		西長尾	活動の担い手	リーダーとして活動できるメンツがいつも同じメンバーなので、その代表者の負担が大きくなるので、その代表者の負担が大きくなる傾向にある。	カーリンコンの活動を開始されている中で地域の見守り隊にもカーリンコンの参加を促す。	カーリンコン参加者メンバーの偏りが見られるため、主だった中心人物は見つけられていない。開催日時や場所の再検討を行いながら参加者の幅を広げる必要がある。	第2層協議体で検討			
11	令和2年3月31日		西長尾	その他（参加者性別偏り）	地域に様々な体操サークル等の集まりは数多く存在するが、どの集まりも比較的男子参加者が少ない。	校区で行われているサロン等の情報を一枚にまとめたパンフレットを作成し、見守り隊の集まりの際などにそのパンフレットを配布し情報提供を行う。	男子参加者同士のネットワークが広がることで、地域の集まり以外の場所でも交流しいただく機会が設けられる。	第2層協議体で検討			
11	令和4年3月31日	令和3年10月6日	西長尾	活動の場	活動場所(屋内)がない。公民館が使えない状態が続いている。	公民館が使えなくなったことについて、不明確な部分があるので管理側と話し合いの継続。	使用可否をはっきりさせ、可能なら今までのような活動が再開でき、不可能なら新たな活動の場を検討する。	第2層協議体で検討 第2層協議体で取組み			
11	令和4年3月31日		西長尾	交流	コロナウイルス感染拡大の影響でサロン等、できていない活動がある。	屋外でも出来る活動の拡充(ノルディックウォーキング等)	より身近で仲間と介護予防の取り組みができる	第2層協議体で検討 第2層協議体で取組み			
11	令和4年3月31日		西長尾	その他(委託料の使途)	枚方市から約25万円/年(委託料)が出ている。より有効な使途を模索。	活動に付随する雑費等も必要に応じて支出する方法の検討	個人の負担をなくすることができる	第2層協議体で検討 第2層協議体で取組み			

圏域	提出日（最新）	計上歴	小学校区	課題区分	課題	提案	効果	今後の方向性	結果	取組内容	備考
12	令和2年7月30日		菅原東	情報の共有 交流 活動の場	新型コロナウイルスの活動自粛に対応しつつの活動内容について	緊急時の対応・周知について、ネットワークの活用、高齢者の居場所づくりを推進しつつ、どう対応していくか等	居場所においての活動ではなく、自宅においても活動できるプログラムづくり。 歩いて歩いて、ついでに床掃除、家の中でできる能活、家の中でも少しでも体を動かす工夫を記載した啓発用チラシの配布	第2層協議体で検討	済	令和2年9月に家の中でできる能活の啓発用チラシを全戸配布し、高齢者宅にはモップ付きスリッパを配布した。 10月から公園2カ所で30分程度の軽い体操を定期的に実施した。	
12	令和4年3月31日	令和2年10月9日 令和3年3月31日 令和3年10月8日	田口山	情報の共有 活動の場	活動の周知 新規参加者募集 コロナ禍における運動不足について	毎月のチラシの工夫 配布方法の検討 三蜜を防ぎながら出来ることを検討	毎月配布をしているので、雰囲気変えれば注目がある。	第2層協議体で検討 第2層協議体で取組み	済	情報収集アンケートを実施し、広報誌で報告（全戸配布）、校区内に感染拡大予防ポスターを掲示した。	
12	令和4年3月31日	令和3年10月8日	田口山	情報の共有 活動の場	活動等の報告	会議を開催できないので、広報にて報告	全戸配布にて周知が可能	第2層協議体で検討 第2層協議体で取組み			
12	令和4年3月31日	令和3年10月8日	田口山	情報の共有 交流 活動の場	コロナ禍で活動ができない 情報共有が困難	早い収束を願い、感染拡大予防ポスター掲示 ライン等 I C T 化を検討	校区内ポスター掲示にて感染拡大予防を呼びかけ	第2層協議体で検討 第2層協議体で取組み			
12	令和2年3月31日		藤阪	情報の共有 活動の担い手 交流 活動の場	サロンや老人会など集まる場所の参加メンバーも、元気づくり教室を開催することで、少しずつ新規の参加者も増えてきているが、2025年問題を踏まえ、ますます高齢化率の増加も予測され、介護予防への積極的な取組みが必要である。 運営する担い手も不足している。 介護や健康に対して、学びの機会が少ない。 居場所づくり事業費だけでは運営継続費用ではない。会場費や講師料が負担がなく、運営継続が難しい。	現在のサロンや老人会を盛り上げ、参加意欲が高まる集いの場を目指す。 地域元気づくり教室の補助金を積極的に活用し、学びの機会を増やす。 コーディネーター事務の委託料を活用した「藤阪校区介護予防・日常生活支援助成事業」費を積極的に利用していただく。 校区内の空きスペースを使い、サロンや相談スペースに活用できないか検討していく。 施設や地域活動に対し、ボランティアを増やすことが出来ないか。	講座内容をまとめた一覧を活用し、元気づくり教室が活発に開催され、サロンの新規参加やボランティア活動への参加協力をしてくれる人が増えた。 藤阪ハイツバス停前広場で、毎月2回ひらかた元氣くらわんか体操の企画を後援し、地域の健康づくりや介護相談場所の提供に向けて進めている。 傾聴ボランティアについて、講演会やほかの地域でのボランティア活動など情報提供をする事で、メンバーへ関心を高めていく。	第2層協議体で取組み		バス停広場での「ひらかた元氣くらわんか体操」実施に向けて、地域の理解や体操の効果を周知する。	
12	令和2年10月5日		藤阪	情報の共有 活動の担い手 交流 活動の場	サロンや老人会など活発に活動をされていたが、新型コロナ感染予防に伴う活動制限や自粛により、体力や認知機能の低下、うつ予防等への積極的な取組みが必要である。 運営する担い手も不足している。 介護や健康に対して、学びの機会が少ない。 居場所づくり事業補助金は初期費用だけであり、地域元気づくり教室補助金は会場費や講師料しか補助がなく、運営継続が難しい。	現在のサロンや老人会については、感染予防に注意しながら活動が復活できるよう目指す。 地域元気づくり教室の補助金を積極的に活用し、学びの機会を増やす。 コーディネーター事務の委託料を活用した「藤阪校区介護予防・日常生活支援助成事業」費を積極的に利用していただく。 校区内の公園などで、ひらかた元氣くらわんか体操などの介護予防体操を実施に向けて検討していく。	一(取組内容と同じ)	第2層協議体で取組み	済	感染症拡大防止に努めながら、各老人会やサロンなどでの取組みの様子を情報共有する事で、少しずつ活動を再開していく事ができた。 居場所づくり事業においては、一ディネーター事務の委託料を活用した「藤阪校区介護予防・日常生活支援助成事業」費を、消毒薬やフェイスシールド等の備品購入に活用するなど提案することで、活動再開を促すことができた。 9月から「ちびっこ広場」で、毎月2回ひらかた元氣くらわんか体操を後援し、地域の健康づくりや交流の場の提供に向け取組めた。	ちびっこ広場の「ひらかた元氣くらわんか体操」の参加者を増やすため、広報周知活動を展開していく。また、体操場所の拡大も検討していく。
12	令和3年3月30日		藤阪	情報の共有 活動の担い手 交流 活動の場	サロンや老人会など活発に活動をされていたが、新型コロナ感染予防に伴う活動制限や自粛により、体力や認知機能の低下、うつ予防等への積極的な取組みが必要である。 運営する担い手が不足している。 介護や健康に対して、学びの機会が少ない。	現在のサロンや老人会については、感染予防に注意しながら活動が復活できるよう目指す。 校区内の公園などで、ひらかた元氣くらわんか体操などの介護予防体操を実施し、活動場所の拡大を検討する。 元氣かい！藤阪の会議や公園での体操の機会に、健康などに関するチラシ配布の情報提供を行う。	一(取組内容と同じ)	第2層協議体で取組み	済	感染症拡大防止に努めながら、各老人会やサロンなどでの取組みの様子を情報共有する事で、少しずつ活動を再開していく事ができた。 ちびっこ広場に次いで、4月から藤阪公園で「ひらかた元氣くらわんか体操」の開催を後援し、校区内で週1回地域の健康づくりや交流の場の提供に向け取組めた。 ひらかた元氣くらわんか体操以外に、地域からボランティアでルーキーズキーや太極拳などの毎回体操指導があり、会場は盛り上がった。	公園で開催する「ひらかた元氣くらわんか体操」の参加者を増やすため、広報周知活動を展開していく。また、地域の方が中心となり体操が継続できる仕組みづくりを検討していく。 新型コロナの感染予防のため、サロンや居場所では会場の人数制限もあり人を集められず、毎回参加者も固定化せざるを得ない状態であった。今後は固定しないような取組みも検討していく。
12	令和元年10月7日		藤阪	情報の共有 活動の担い手 交流 活動の場	サロンや老人会など集まる場所はあるが、参加メンバーがいつも同じで新規の参加者が増えない。 運営する担い手も不足している。 介護や健康に対して、学びの機会が少ない。 居場所づくり事業だけでは、講座など費用負担がある。	現在のサロンや老人会を盛り上げ、参加意欲が高まる集いの場を目指す。 地域元気づくり教室の補助金を積極的に活用し、学びの機会を増やす。 コーディネーター事務の委託料を活用した「藤阪校区介護予防・日常生活支援助成事業」費を積極的に利用していただく。 校区内の空きスペースを使い、サロンや相談スペースに活用	一(取組内容と同じ)	第2層協議体で取組み	済	一つのサロンが活動を報告することで、会議に参加している他の活動団体も刺激を受け、会議での情報共有もでき、藤阪校区内で元気づくり教室が活発に開催された。サロンの新規参加者が増え、サロンの担い手であるボランティア活動にも参加協力をしてくれる人が増えた。 講師調整がしやすいように、介護サービス事業所からも講座ができる一覧の提案があり、各団体が積極的に講師の調整を行い、地域と医療、介護事業所との連携が進んだ。	今後は各団体が行った地域元気づくり教室の講座内容をまとめ「元氣かい！藤阪」での成果物として藤阪校区内で活用していく。
12	令和4年3月31日	令和2年3月30日 令和3年9月30日	藤阪	交流 活動の場	サロンや老人会など活発に活動をされていたが、新型コロナ感染予防に伴う活動制限や自粛により、体力や認知機能の低下、鬱予防等への積極的な取り組みが必要である。 また、これまで参加していたグループ活動に復帰するには受け入れ先の理解や配慮が必要である。	現在のサロンや老人会については、感染予防をしながら活動を継続。	感染症拡大防止に努めながら、各老人会やサロンなどでの取り組みの様子を情報共有することで、各々がすこしづつ活動を継続することができた。	第2層協議体で検討 第2層協議体で取組み			
12	令和4年3月31日	令和2年3月30日 令和3年9月30日	藤阪	情報の共有	元氣かい！藤阪で「ひらかた元氣くらわんか体操」に取り組んでいるが、参加メンバーが固定傾向である。	2カ所で行っている「ひらかた元氣くらわんこ体操」の活動を継続し、参加者が増えるよう、取り組みを検討し、体操開催日時のチラシ作成や地域の広報誌などを通じて周知活動を行う。	校区内で毎週1回地域の健康づくりや交流の場の提供に向け取り組めた。	第2層協議体で検討 第2層協議体で取組み			公園で開催する「ひらかた元氣くらわんか体操」の参加者を増やしメンバーが固定化しないよう、広報周知活動のほか、今後も新しい取り組みを検討する。
12	令和4年3月31日	令和2年3月30日 令和3年9月30日	藤阪	情報の共有	身体の不自由さや認知症状などからゴミ出しなどの生活支援の必要性があっても、支援する人員が不足している問題がある。	会議内で、生活支援員が不足している問題を共有し、生活支援員養成研修を校区内で開催することを提案。	高齢になっても社会とつながりを持ち、地域で元気に活動する方を増やし、要支援者を地域で見守る体制づくりに取り組み機会になることを会議内で共有できた。	第2層協議体で検討 第2層協議体で取組み			生活支援員養成研修の開催に向けて、広報活動を展開していく。
13	令和4年3月15日	令和元年10月10日 令和2年3月31日 令和2年10月7日 令和3年3月31日	津田	情報の共有 活動の場	ほっこりクラブ津田・福寿会の居場所を地域の皆さんに周知する。また介護、医療サービス事業所いご協力いただき活動内容の充実を図る。 認知症カフェの内容の充実も上記内容と同時に行う	地域住民向けのアンケート作成や周知活動を充実し、地域にチラシ等を配る。	地域高齢者（一人暮らし含む）の参加が増える。	第2層協議体で取組み			

圏域	提出日（最新）	計上歴	小学校区	課題区分	課題	提案	効果	今後の方向性	結果	取組内容	備考
13	令和4年3月15日	令和元年10月10日 令和2年3月31日 令和3年10月4日	津田南	情報の共有 活動の場	地域一人暮らしの方の買い物支援サポートが必要	介護サービス事業者と大手スーパーに買い物支援について検討している。現在の介護事業所だけに留まらず地域の企業にも参加を呼びかけていく。	地域一人暮らし（認知症）の買い物難民の減少 地域高齢者(独居)の買い物難民減少	第2層協議体で取組み			
13	令和4年3月15日		津田南	活動の場	コロナによる感染予防のため、地域の集まりが縮小されている。医療機関の状況を考えると仕方ないことだが、その結果、自宅で過ごす時間が長くなり、身体を動かす機会が減り筋力が低下し介護が必要な状態になる可能性が高い。	津田南校区コミュニティ協議会会長を中心に、全地区に同好会を立ち上げる。(元気で長生き健康体操・withコロナ) 内容：ノルディックエクササイズ「みんなでいっしょ」だけでなく「一人でも」できる運動。	令和4年2月から開始 津田南、津田山手に同好会を作ることができた。残りの自治会長等も積極的に教室の体験や開催に向けて準備を進めている。	第2層協議体で取組み			
13	令和4年3月31日	令和3年3月31日	氷室	その他（地域活動の再開）	健康で長生きを目標に活動を行っていたが、新型コロナウイルス感染症蔓延予防のために、自粛を余儀なくされ地域高齢者の健康状態が心配される。また、感染症が治まった後の活動再開への準備に向けた取組みが必要 コロナによる活動自粛が長期間になっていることが原因で『鬱になった』等、健康被害が出現しており、活動再開を望む声もあるが、高齢化率が高い地域であるが故に、対象者だけでなく支援者側からの不安も大きく、感染リスクがあるうちは延期すべきとの意見もあり、再開できていない現状がある。	体力測定や体操教室などについては、地域包括支援センター、保健師等に相談する。 各活動の再開については、「ほっと館ひむろ」を指標にされている地域が多いことから、まずは「ほっと館ひむろ」の定期的な再開を目指していく。	外出（人と話す）や運動の機会を増やすことで、身体や認知機能が衰える虚弱「フレイル」の予防が行える。	第2層協議体で取組み			